

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（10月）

留学先大学：浙江大学

名前：吉居夏美

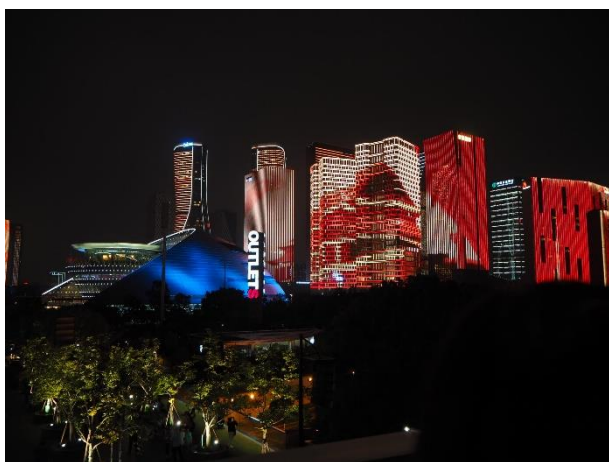
【はじめに】

杭州に来て早2か月が経とうとしています。10月も後半になりましたが、日によって暖かかったり肌寒かったり、季節の変わり目で風邪をひきやすい時期です。今月も先月に引き続きやる事が盛りだくさんで、とても忙しい1か月間でした。その中でも、上旬にあった国庆节の過ごし方、杭州日本人学校への訪問、日中文化交流会への参加、北京・蘇州への旅行について書きたいと思います。

【中国の祝日“国庆节”】

中国では、10月1日が“国庆节（国慶節）”という中華人民共和国の建国記念日で、この日から1週間が大型連休です。そのためこの1週間は授業がありませんでした。多くの人はこの連休を使って旅行に行くのですが、私は予定を立てるのが遅かったのと、どこに行ってもすごい人だということを聞いて、ずっと杭州にいました。友人の写真を見せてもらおうと、電車や空港はとてつもない人の量でした。中国の人の多さを感じました。1週間も期間があるので旅行をするのには最適な時期ですが、もし旅行に行くとしたら早めの計画と人の多さの覚悟をした方がいいと思います。

私は大学からバスで1時間くらいの建物で、国慶節限定のプロジェクションマッピングやライトアップがあると聞いてそれを見に行きました。規模も大きく、にぎやかで、とてもきれいでした。



↑プロジェクションマッピングの様子



↑国慶節の時じゃない杭州东站(駅)の様子
(国慶節の時は白い部分も全部人で埋め尽くされるらしい)

【杭州日本人学校への訪問】

国慶節明けに、杭州日本人学校に訪問させていただきました。訪問しようと思った理由は、3年前期のPBLで中国にルーツのある子供たちに勉強を教える活動をしてきたため、そのつながりや共通点が何かあるのではないかと思ったことと、単純に日本人学校に興味があり、なかなか訪問する機会もないと思ったからです。メールで連絡をすると、校長先生が丁寧に対応してくださり、当日も簡単な校内の見学と、直接校長先生からお話を伺うことができました。日本人学校で受けられる教育は、私が思った以上に日本で受ける教育とほとんど変わりなく、校内は日本語であふれ、懐かしささえ感じました。違う点と言えば、日常で使う程度の中国語の授業があることくらいでした。子供達の使う言語も日本語で、ある程度の日本語能力がないと入学ができないそうです。単純に私の知識不足だった部分もあるとは思いますが、ここでのお話は私の知らないことだらけで、非常に貴重な経験となりました。場所は大学から自転車とバスで片道約2時間と少し遠かったですが、距離が離れていることもあり、普段私が暮らす大学の周りとは少し違った街の雰囲気も感じる事ができたので、行って良かったなと思います。

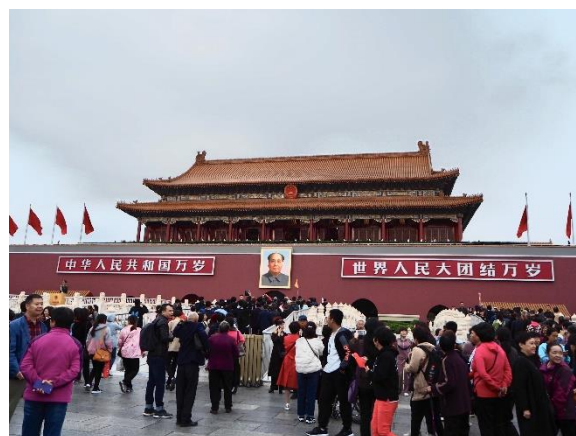
【日中文化交流会への参加】

中旬ごろに、先月メインキャンパスでのサークルの勧誘で見つけた日中文化交流会の初めての活動に参加してきました。15時から17時まではみんなでゲーム、夜はみんなで晩御飯を食べるという流れでした。日本人は15人ほどで、中国人は20人以上いました。日中の交流会なので、少しくらいは日本語で話すのかと思っていましたが、説明などはほとんど中国語で圧倒されました(笑)しかも、私以外の日本人の人は中国語学科の人がほとんどで、みんな話せるし聞き取れていたもので、私は自分だけがわからない疎外感と恥ずかしさ、そして悔しさを感じました。自己紹介も全部中国語だったので、あまり話せない私はすごく緊張してみんなに比べるとほんの少ししか話せませんでした。自分の簡単な自己紹介くらいは流暢に話せるようにしておくべきだと思いました。でも、参加していた中国人は日本語を少し勉強していたので、ゲーム中は英語と中国語と日本語を交えながら、楽しむことができました。でも、自分をもっと話せばもっと楽しかったらと思うました。結局一日を通してうまく中国人の人たちと交流ができなかったのもっと積極的に話に行くべきだったなと思いました。

【北京、蘇州への旅行】

11~14日に、高校時代の友達が留学している北京に遊びに行きました。北京までは高铁という新幹線のような高速鉄道で約6時間かけて行きました。チケットの予約は携帯アプリ

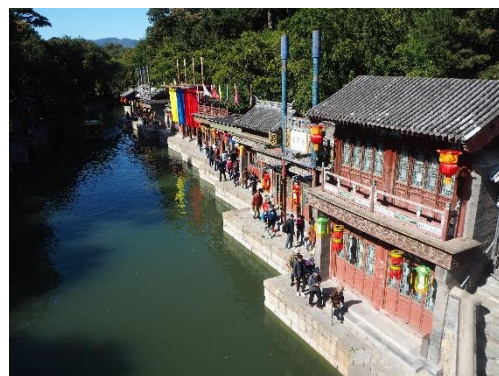
りでした、それを駅で切符に換えて、改札、荷物検査のゲートを通して、最後ホームに降りる前にもう一度改札に切符を通して、やっと乗れました。北京までは一人で、その駅を利用するのも初めてだったので、とても緊張しました。高铁の中は意外と快適できれいでした。日本の新幹線とそんなに変わらなかったです。表示を見ると時速約 300 kmも出ているのに、ほとんど揺れは感じませんでした。そして車内ではまた新たな出会いがありました(笑) 私が車内販売のお姉さんが言っていることがわからず困っていると、隣のおじさんが英語で助けてくれました。それがきっかけで おじさんが降りるまでの約 1 時間ずっと話していました。どうやらおじさんは淘宝(中国のネットショッピングサイト)にも出店している洋服店の社長らしく、よく杭州にも仕事で出向くと言っていました。どこでどんな出会いが待っているかわからないものだなと思いました。その日は無事北京に到着し、次の日から友達と共に北京の観光地を巡りました。その友達と会うのも久しぶりで、まさか中国で再会するとはお互い思っていなかったもので、なんだか不思議な感じでした。約 3 日間で、万里の長城、天安門広場、故宮博物館、円明園、頤和園、王府井、南鑼鼓巷に行きました。北京は有名な観光地が近い場所に集まっているので、意外と短時間で様々なスポットを楽しむことができました。どこも教科書やテレビでしか見たことのない場所・建物・世界遺産ばかりだったので、自分がその地にいることが信じられませんでした。短期間でこんなにも色々な所に連れて行ってくれた友達にも感謝です。交通の便や人の多さ、規模の大きさ、中国語の聞き取りやすさには、さすがは中国の首都・北京を感じました。



→
←
万里の長城



→
円明園

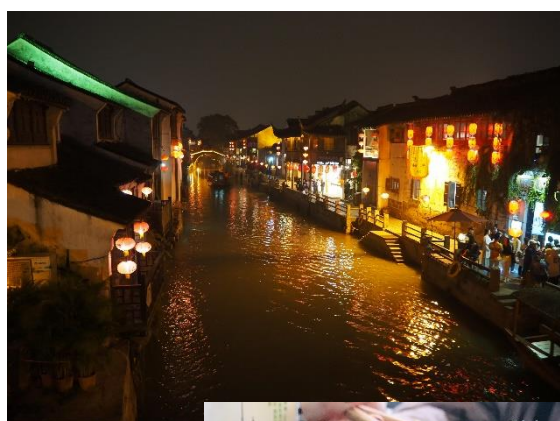


↑
頤和園

25～26日には、杭州の北東に位置する蘇州へ行きました。蘇州は、「上有天堂 下有苏杭(天上には天国があり、地上には蘇州と杭州がある)」と言われるくらい、杭州と並び、美しい街として知られています。杭州に比べ少し田舎で、中国らしい古き良き建物や街並みが広がっていてとても良い雰囲気でした。食べ物もとてもおいしく、杭州に比べ少し甘い味付けのような感じがしました。ここで食べた蘇州面(蘇州麵)と生煎(焼き小籠包)の味が忘れられません。



小籠包はどこで食べても中から肉汁がでてきて本当においしいです…。蘇州では1泊しかしなかったのですが、宿泊したホテルは2人部屋でなんと1泊1人約850円!(笑)初めは大丈夫かなと思っていたものの、行ってみるとだいたいのアメニティや清潔感もあり、十分な設備でした。日本では考えられない安さです。蘇州では、観前街、平江歴史街区、山塘街、獅子林、拙政園に行きました。蘇州までの交通手段は、北京の時の高铁ではなくて、硬座という固い椅子の普通の電車で行きました。硬座は名前の通り、固い椅子で背もたれも倒せず、ずっと直角のまま約3時間の移動でした。さすがにお尻が痛くなりました(笑)もっと早く快適に行く方法はありましたが、節約のため一番安いチケットにしました。1泊2日という短い期間でしたが、ハプニングもありつつとても楽しい旅でした。



↑山塘街



←蘇州面



→生煎



→獅子林

【最後に】

冒頭でも言ったように、10月は季節の変わり目で気候が暑くなったり寒くなったり繰り返してました。周りでも風邪をひいたり体調を崩す人も多かったです。また、下旬ごろに学内の食堂で食中毒が出ました。私もたまに利用する食堂で発生したらしく、ネットでもニュースになっていました。どう対策したらいいかはわかりませんが、とりあえず食事前後の手洗いうがいを忘れずに気を付けようと思います。食中毒が発生した直後でも他の食堂は平常通り営業しており、発生した食堂も週明けには既に営業再開していたので、大丈夫かと思いました（笑）

また、私事ですが、9月下旬ごろから咳が止まらず一向に治らなかったもので、今月下旬ごろに病院に行きました。加入した海外保険会社のJIデスクに電話すると、病院の紹介から予約、通訳までつけてくださり、とても丁寧に対応していただきました。薬も大量にもらいましたが、お金は一切払わずに済みました。まさか自分が留学先で病院に行くとは思っていませんでしたので、保険に入っていて本当に良かったと思いました。病気の原因は聞くのを忘れましたが、空気の影響もあるのかなと思います。といっても、私の周りで同じ症状の人を見ていないのと、私が元々のどが弱いこともあるので、ただの推測に過ぎませんが…。今は療養して早く治して元気に過ごしたいです。

来週は中間考査があるので、今はその勉強も含め、授業後もずっと勉強しています。普段生活していると、「こういう時何て言えばいいんだろう」「今、この人は何を言っているのだろう」「今、こう言いたいのに」と思うことだらけで、もどかしく悔しい思いをしているので、日々もっと勉強して会話出来るようになりたいという気持ちが湧いてきます。この思いに行動がついていくように、引き続き勉強も頑張っていきたいです。

ではまた来月！ 再见！